

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：16101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K10883

研究課題名（和文）性被害・性加害を防止する性的権利尊重・行使e-learningプログラムの開発

研究課題名（英文）Development of an e-learning program for the prevention of sexual victimization and perpetration, promoting respect for and exercise of sexual rights.

研究代表者

内海 千種（UCHIUMI, Chigusa）

徳島大学・大学院社会産業理工学研究部（社会総合科学域）・教授

研究者番号：90463322

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：大学生を対象とした性的権利の尊重と行使を取り入れた教育プログラム検証のための基礎データとするため、COVID-19感染拡大による生活変化が心身に及ぼす影響について、調査をおこなった。第一回目の緊急事態宣言発令時に高かった心理的苦痛や抑うつ状態は、徐々に改善されていた。しかし、孤独感は1回目よりも2回目の緊急事態宣言時に増加しており、社会的ネットワークも減少していることが明らかとなった。特に若年層の抑うつや希死念慮には、低減が認められなかった。希死念慮に影響する要因として明らかとなった、社会的ネットワークや孤独感、睡眠習慣、不安症状等へのアプローチが、効果的な予防策となる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、本邦におけるパンデミック下のメンタルヘルスに関する実態把握の基礎データとして貴重な知見となりうる点で、学術的に意義あるものである。また、パンデミックがメンタルヘルスに及ぼす影響だけでなく、心理的影響を強める要因、回復に関与する要因も含めて明らかにし、社会的支援やメンタルヘルス対策の必要性を示した点で、社会的にも意義のあるものである。

研究成果の概要（英文）：A survey was conducted to validate an educational program on sexual rights, examining the impact of COVID-19 lifestyle changes on individuals' well-being. Initially, during the first state of emergency, there were elevated psychological distress and depressive symptoms, which gradually improved over time. However, the second state of emergency revealed an increase in feelings of loneliness and a decline in social networks. Notably, the younger age group did not exhibit a reduction in depressive symptoms or suicidal ideation. From the results of this study, addressing factors such as social networks, loneliness, sleep patterns, and anxiety symptoms may serve as effective preventive measures for suicidal ideation.

研究分野：臨床心理学

キーワード：mental health COVID-19

1. 研究開始当初の背景

2017年の刑法改正によって性犯罪の厳罰化が進んだものの、被害に対する十分な予防策が取られているとはいえない状況であった。先行研究では、性的権利を尊重することによって性加害を、性的権利を行使する抵抗行動によって性被害を、それぞれ予防できる可能性のあることが指摘されていたことから、大学生を対象とした性的権利の尊重と行使を取り入れたプログラムの作成に着手することとした。しかしながら、効果検証を行う段階で、COVID-19感染拡大によって、実施予定であった大学新生生に対する全数調査を実施することができなくなり、また、これまでの心理的ストレスや精神健康に関する調査結果をベースラインとすることが困難となった。このため、パンデミック下の心理的ストレスや社会行動上の変化について調査を行うこととした。

2. 研究の目的

上記の背景を受け、COVID-19感染拡大による緊急事態宣言下の生活変化が心身に及ぼす影響について、基礎的データの蓄積を行うとともに、心理的ストレスの危険因子と保護因子を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 調査時期：緊急事態宣言の発令にあわせ web 調査を実施
- (2) 対象者：緊急事態宣言が発令された都府県在住者（18歳以上）
- (3) 調査方法：調査協力者は株式会社マクロミル（東京）を通じて Eメールで募集し、オンラインプラットフォームを使用してデータ収集を行った。また参加者全員に、マクロミル社が提供する報酬システム内で使用できるマクロミルポイントを付与した。
- (4) 主な調査項目：基本属性（年齢、性別、雇用形態、配偶者の有無、子どもの有無、世帯年収等の社会統計学的情報）、心理的ストレス（K-6）、抑うつ（PHQ-9）、不安（GAD-7）、孤独感（UCLA-LS3）、社会的孤立（LSNS-6）等。

なお本調査は、徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会総合科学域研究倫理委員会の承認（受理番号 212）を受け実施された。

4. 研究成果

(1) 性的権利の尊重と行使を取り入れたプログラムの作成について

国外の教育プログラム等を参考に（Senn et al., 2013 [1], 2015 [2]）、「パートナーシップ」「危険の判断」「抵抗行動の種類」等からなるプログラムを作成した。予備的に大学生、大学院生に実施し、表現や実施内容の修正を行なったが、上記の通り、詳細な効果検証の実施が困難であった。

また、性犯罪者に対する Brief Therapy (BT) の実施事例を通して、犯罪を防ぐ要因として、犯罪者の個人的で適応的ではない価値観の明確化ならびにその価値観の変容の重要性が認められた他、オンラインソーシャルネットワーク上での性加害行為が明らかとなったことから、プログラム効果検証の際には、これらの結果を踏まえて実施していきたい。

COVID-19が5類感染症となったことから、今後は上記の点に加え、(2)以降の結果も踏まえた上で、プログラム効果の検証に取り組んでいきたい。

(2) 第1回目の緊急事態宣言下における心理的ストレス

緊急事態宣言の対象となった7都府県在住の10代から80代の11,333名から回答を得た。調査協力者の36.6%が軽度から中程度の、11.5%が重度の心理的苦痛を感じていることが明らかとなった。また、17.9%が治療を要する可能性の高い抑うつ状態にあり、この結果は2013年の調査（Hoshino et al., 2018 [3]）の7.9%を大きく超えるものであった。また、医療従事者や精神疾患の既往歴、若年者や女性、学生などにおいて、特に心理的ストレスが高い傾向にあった。

さらに心理的苦痛の重症度とその他の調査項目との相互作用動態を検討した

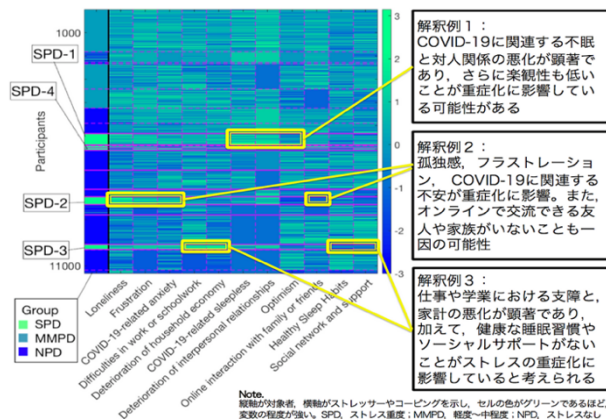


図1.心理的ストレス重症化の背景要因

結果、重度の心理的苦痛を感じている場合の特徴として、孤独感の高さ、対人関係の悪化、COVID-19による不眠や不安、家計の悪化、仕事・学業における支障などが示された(図1)。一方で、仕事・学業における支障があっても、心理的苦痛が低い場合の特徴として、生活変化への前向きさ、オンラインでの交流の多さ、健康的な睡眠習慣の維持が示された。

(3) 第2回目以降の緊急事態宣言下における心理的ストレス

第1回目調査参加者ならびに新たに緊急事態宣言が発令された都府県在住者を対象とし、20,610名から回答を得た。協力者のうち、第1回目と第2回目の両方に回答している追跡調査者は7,893名である。

調査協力者の33.8%が軽度～重度の心理的苦痛を感じており、14.4%が治療を要する可能性の高い抑うつ状態にあった。コロナ禍前よりは悪化しているものの、第1回目調査時と比較すると、全体としてメンタルヘルスは改善の傾向が認められた。しかしながら、第1回目調査における社会的孤立状態にあると推定された人々の割合が44.1%であったことに対し、第2回目調査では60.3%となり悪化が顕著であった。

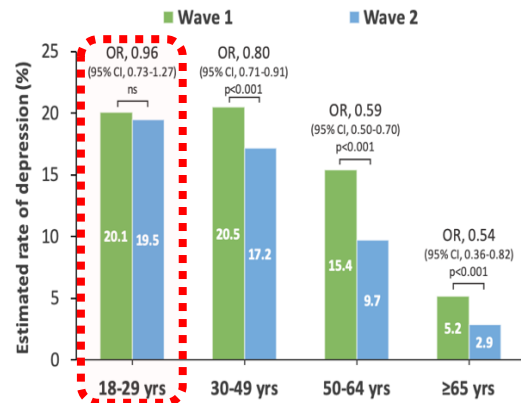


図2.抑うつ推定率の年齢層間比較

追跡調査者について、第1回目と第2回目の抑うつの推定率を年齢別に比較すると、18-29歳の年齢層がもっとも抑うつの推定率が高く、このグループのみ推定率が低減していなかった(図2)。また、18-29歳のみ、2回目調査で希死念慮が低減していなかった。

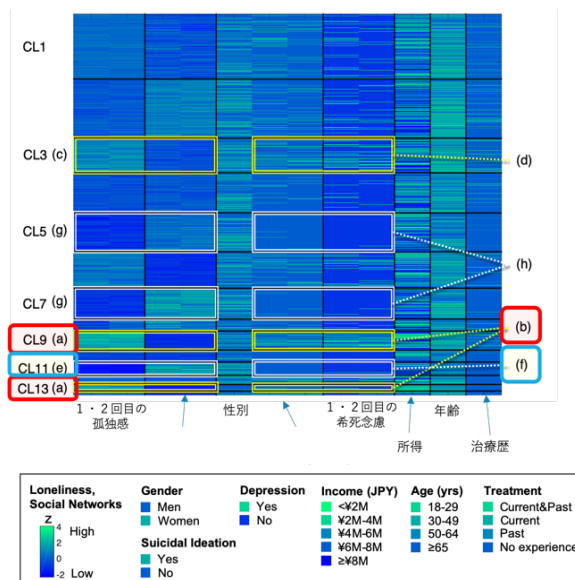


図3.うつ病推定率、希死念慮に関わる背景要因

言下で追跡調査を実施した結果とあわせ、希死念慮を予測する心理社会的変数の検討をおこなった。その結果、一度生じた希死念慮はパンデミック下では残遺・再発する可能性が示唆された他、社会的ネットワークの大きさや孤独感、睡眠習慣や不安等も希死念慮の生起を分ける可能性が認められた。

<引用文献>

- [1] Senn, C. Y., Eliasziw, M., Barata, P. C., Thurston, W. E., Newby-Clark, I. R., Radtke, H. L., & Hobden, K. L. (2013). Sexual assault resistance education for university women: study protocol for a randomized controlled trial (SARE trial). *BMC women's health*, 13(1), 1-13.
- [2] Senn, C. Y., Eliasziw, M., Barata, P. C., Thurston, W. E., Newby-Clark, I. R., Radtke, H. L., & Hobden, K. L. (2015). Efficacy of a sexual assault resistance program for university women. *New England journal of medicine*, 372(24), 2326-2335.
- [3] Hoshino, E., Ohde, S., Rahman, M., Takahashi, O., Fukui, T., & Deshpande, G. A. (2018). Variation in somatic symptoms by patient health questionnaire-9 depression scores in a representative Japanese sample. *BMC Public Health*, 18(1), 1-10.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Yamamoto Tetsuya, Uchiimi Chigusa, Suzuki Naho, Sugaya Nagisa, Murillo-Rodriguez Eric, Machado Sergio, Imperatori Claudio, Budde Henning	4. 巻 12
2. 論文標題 Mental health and social isolation under repeated mild lockdowns in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 8452 ~ 8452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-12420-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Suzuki Naho, Yamamoto Tetsuya, Uchiimi Chigusa, Sugaya Nagisa	4. 巻 22
2. 論文標題 Socio-economic and behavioral characteristics associated with COVID-19 vaccine hesitancy under a declared state of emergency in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Brain, Behavior, & Immunity - Health	6. 最初と最後の頁 100448 ~ 100448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbih.2022.100448	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sugaya Nagisa, Yamamoto Tetsuya, Suzuki Naho, Uchiimi Chigusa	4. 巻 20
2. 論文標題 Change in Alcohol Use during the Prolonged COVID-19 Pandemic and Its Psychosocial Factors: A One-Year Longitudinal Study in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 3871 ~ 3871
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph20053871	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Suzuki Naho, Yamamoto Tetsuya, Uchiimi Chigusa, Sugaya Nagisa	4. 巻 18
2. 論文標題 Effects of Interoceptive Sensibility on Mental Health during the Coronavirus Disease 2019 Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 4616 ~ 4616
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18094616	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugaya Nagisa, Yamamoto Tetsuya, Suzuki Naho, Uchiumi Chigusa	4. 巻 11
2. 論文標題 Social isolation and its psychosocial factors in mild lockdown for the COVID-19 pandemic: a cross-sectional survey of the Japanese population	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e048380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2020-048380	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Tetsuya, Uchiumi Chigusa, Suzuki Naho, Sugaya Nagisa, Murillo-Rodriguez Eric, Machado Sergio, Imperatori Claudio, Budde Henning	4. 巻 -
2. 論文標題 The influence of repeated mild lockdown on mental and physical health during the COVID-19 pandemic: a large-scale longitudinal study in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 medRxiv	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1101/2021.08.10.21261878	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sugaya Nagisa, Yamamoto Tetsuya, Suzuki Naho, Uchiumi Chigusa	4. 巻 18
2. 論文標題 Alcohol Use and Its Related Psychosocial Effects during the Prolonged COVID-19 Pandemic in Japan: A Cross-Sectional Survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 13318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph182413318	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugaya Nagisa, Yamamoto Tetsuya, Suzuki Naho, Uchiumi Chigusa	4. 巻 8
2. 論文標題 The Transition of Social Isolation and Related Psychological Factors in 2 Mild Lockdown Periods During the COVID-19 Pandemic in Japan: Longitudinal Survey Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JMIR Public Health and Surveillance	6. 最初と最後の頁 e32694
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/32694	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Naho, Yamamoto Tetsuya, Uchiumi Chigusa, Sugaya Nagisa	4. 巻 22
2. 論文標題 Socio-economic and behavioral characteristics associated with COVID-19 vaccine hesitancy under a declared state of emergency in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Brain, Behavior, & immunity - health	6. 最初と最後の頁 100448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbih.2022.100448	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokotani, K., Takano, M.	4. 巻 119
2. 論文標題 Social Contagion of Cyberbullying via Online Perpetrator and Victim Networks	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Computers in Human Behavior	6. 最初と最後の頁 106719
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chb.2021.106719	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokotani, K., Takano, M.	4. 巻 128
2. 論文標題 Predicting cyber offenders and victims and their offense and damage time from routine chat times and online social network activities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Computers in Human Behavior	6. 最初と最後の頁 107099
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chb.2021.107099	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokotani, K., Takano, M.	4. 巻 68
2. 論文標題 Effects of suspensions on offences/damages of suspended users and their peers on an online chat platform	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Telematics and informatics	6. 最初と最後の頁 101776
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tele.2022.101776	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Tetsuya, Uchiimi Chigusa, Suzuki Naho, Yoshimoto Junichiro, Murillo-Rodriguez Eric	4. 巻 17
2. 論文標題 The Psychological Impact of 'Mild Lockdown' in Japan during the COVID-19 Pandemic: A Nationwide Survey under a Declared State of Emergency	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 9382 ~ 9382
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17249382	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sugaya Nagisa, Yamamoto Tetsuya, Suzuki Naho, Uchiimi Chigusa	4. 巻 7
2. 論文標題 A real-time survey on the psychological impact of mild lockdown for COVID-19 in the Japanese population	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Data	6. 最初と最後の頁 1 ~ 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41597-020-00714-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokotani Kenji, Tamura Katsuhiro	4. 巻 10
2. 論文標題 Brief Therapy for a Serious Sex Offender	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Brief Therapy and Family Science	6. 最初と最後の頁 13 ~ 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.35783/ijbf.10.1_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山本哲也, 内海千種, 鈴木菜穂, 菅谷 渚
2. 発表標題 コロナ禍に起因する自粛生活が心身の健康にもたらす影響 - 計4回の緊急事態宣言下における前向きコホート研究 -
3. 学会等名 慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター 第21回パネル調査カンファレンス (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木 菜穂, 山本 哲也, 内海 千種, 菅谷 渚
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症のパンデミック下における内受容感覚の鋭敏さが精神的健康に与える影響
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会発表論文集
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本哲也 内海千種 鈴木菜穂 菅谷 渚
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に起因する反復的・持続的な自粛生活が心身の健康にもたらす影響－緊急事態宣言下における大規模オンライン縦断調査－
3. 学会等名 日本心理学会第85回大会発表論文集
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木 菜穂, 山本 哲也, 内海 千種, 菅谷 渚
2. 発表標題 緊急事態宣言下における内受容感覚の鋭敏さの男女差が精神的健康に与える影響
3. 学会等名 日本認知・行動療学会第47回大会発表論文集
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本哲也, 内海千種, 鈴木菜穂, 菅谷渚
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況で生じる希死念慮の予測因子の同定～計4回の緊急事態宣言下における前向きコホート研究～
3. 学会等名 第28回日本行動医学会学術総会抄録集
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横谷謙次 高野雅典
2. 発表標題 オンラインチャットのアカウント停止がアカウント停止者とその仲間の違反行為に及ぼす効果
3. 学会等名 情報処理学会84回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本哲也、内海千種、鈴木菜穂、菅谷渚、吉本潤一郎、Eric Murillo-Rodrigue
2. 発表標題 緊急事態宣言下における人々のメンタルヘルスの実態と危険因子・保護因子の解明 ~COVID-19感染拡大による生活変化の影響に関する大規模オンライン調査~
3. 学会等名 第27回日本行動医学会学術総会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小倉正義・内海千種	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学苑社	5. 総ページ数 10
3. 書名 第11章「トラウマへのアプローチ」, 小倉正義編著『発達障がいといじめ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横谷 謙次 (YOKOTANI Kenji) (40611611)	徳島大学・大学院社会産業理工学研究部(社会総合科学域)・准教授 (16101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------